SDGs HeadLine2021
～SDG s 達成への道～

燈台の光プロジェクト　Be Leaders 新聞班
2021 年 7 月 20 日（火）　2021 年度　2 号
（通巻８号）
この新聞は学校 HP にも掲載しています。

ハブだけじゃない！新種、種の保存法指定種に注意！

沖縄で生息の新種
ベニエリルリゴキブリ
種の保存法緊急指定種に

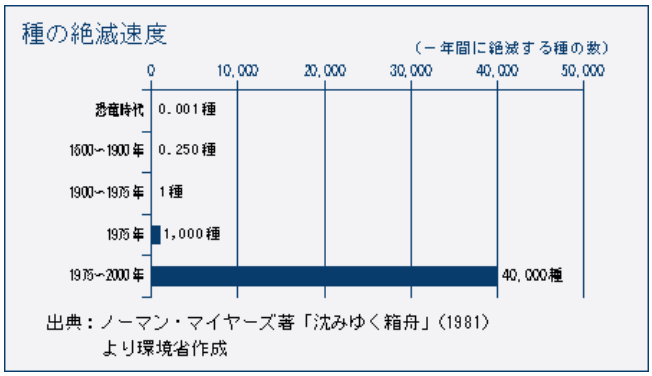
環境省は6月29日に新種のゴキブリ「ベニエリルリゴキブリ」など、沖縄県に生息する希少な節足動物について種の保存法に基づく緊急指定種にすると発表、7月1日から3年間、捕獲や譲渡、売買が禁止される。このルリゴキブリ類は、インターネットオークションなどで頻繁に売買が確認されている。ベニルリゴキブリは沖縄県・宮古島のみに生息、羽に帯状のオレンジ色の模様があり，6月に新種として論文に掲載された。その他、緊急指定種となったのが与那国島だけに分布する「ウスオビルリゴキブリ」と沖縄島北部などで見られる「リュウジンオオムカデで、いずれも最近の研究で新種として認められ、愛好家の間などで関心が高まっているそうだ。賢明での高校2年生の修学旅行は沖縄である。珍しい、キレイといって捕獲しないように注意が必要である。ちなみに「種の保存法」違反では、国内希少野生動植物種を捕獲、譲渡、輸出入等した違反者に対し、5年以下の懲役や５００万円以下の罰金を科すことを定めている。

絶滅危惧種とは現在生存している個体数が減少しており、絶滅の恐れの極めて高い野生生物の種のことをいう。2019 年に発表されたデータによると、絶滅危惧種の数は、日本だとイリオモテヤマネコ、カブトガニ、コウノトリ、ジュゴンなどをはじめとした 3732 種、世界では 28338 種とされている。私たちは絶滅危惧種と聞くと、たいていの場合動物や昆虫を思い浮かべるが、他にも貝類（サドマイマイなど）や植物類（マリモなど）など様々な種類の生物が絶滅の危機に面し、絶滅危惧種の数は今も増え続けている。ではどうして絶滅危惧種の数は増えてしまうのだろうか？

絶滅危惧種を増やす原因として、土地の開発、土地の汚染、乱獲や密猟、外来種の持ち込み、地球温暖化や気候変動の影響里地や里山の放置などがあげられるそうだ。ここから、絶滅危惧種が増える原因は地球上の生命が自然淘汰された結果と思われがちだが実は人間が大きく関わっているということが分かる。また、ＩＵＣＮ（国際自然保護連合）のレッドデータブックによると、人間と同じほ乳類では約20％、両生類では30％がすでに絶滅危惧種になっており、近い将来「絶滅危惧種」になると予想される生物は、ほ乳類で49％、鳥類では77.7％となっている。これから見てもわかるように事態はかなり深刻化している。川のゴミ拾いや、外来種を自然に放さないなど私たち一人一人が自分たちに出来ることを考えて行動していくことが大切である。沖縄にも外来種が数多く生息していると聞く。修学旅行で訪れた際にはそこにも注目して沖縄の自然を見てみたい。（記事　久保音祢）

※種の保存法・・・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」国内に生息・生育する種又は外国産の希少な野生動植物の保存するための必要な措置を定める。1992 年 6 月制定、93 年 4 月に施行。

右ベニエリルリゴキブリ
左ウスオビルリゴキブリ
下リュウジンオオムカデ



賢明人語

「SDGs ウォッシュ」という言葉をご存知だろうか。これは、さも自社の取り組み、商品・サービスが SDGs に貢献しているかのようで実態は伴っていない企業を揶揄する言葉だ。今や SDGs の認知度は世界的にも高く、大学や企業でも、ホームページに SDGs 関連の一面を立ち上げていないところを探す方が難しい。だからこそ私は今、警鐘を鳴らす。

▼例を出すなら、衣服を製造する過程で多くの CO2 を排出しているにも拘らずリサイクル素材で作ったということだけを PR する企業であったり、環境に配慮し余計なものは全て取り除いたからこその低価格と謳われる商品は、実は低賃金で雇われた東南アジア従業員の犠牲の上に成り立っていたり・・・。悲しいがこんな SDGs ウォッシュが蔓延っているのが現実で、またこの現実を許しているのは消費者の「無知」であると、思わずにはいられない。

▼私は二年前の学院祭でフェアトレード商品を扱う店を担当したが、その商品はどれも、日常の買い物感覚で言えばまあ高い。「100 均にもある」という声すら聞こえた。しかしよく考えると、あんなに出来の良いものが百円で買えること自体おかしいのである。100 均の MADE IN CHINA が物語るのは、輸送費や現地従業員の給料、その他コスト諸々を含めても、それでも「百円」で「利益がでる」ということ。私自身ここまで考えを巡らせたのは、恥ずかしながら二年前が初めてだった。▼SDGs が高い注目を浴びる中、果たして私達は SDGs に関しどれだけのことを知っているだろう。確かに SDGs のヒントは実はごく身近なところにある。しかしそれは同時に「こじつけやすさ」でもあるのだ。SDGs は良いもの、そんな曖昧な認識が SDGs ウォッシュを見えづらくさせ、悪循環を生み出す。Be Leaders という素晴らしい組織を有する賢明だからこそ、一人ひとりが正しい知識と情報を吟味する力を備えつけることが必要で、積極的姿勢がかえって企業の目論見に加担するようでは本末転倒である。（原里桜奈）

UNIQLO　服のチカラプロジェクト特別授業

賢明生 16 名が参加

7月6日火曜日に、本校が取り組んでいる「服のチカラプロジェクト」を主催されているユニクロさんによるプロジェクトについての特別授業が行われました。講師として神野裕美先生と谷光友余先生が来校、新聞班のメンバーも参加し、有意義な時間を過ごすことができました。以下は特別授業の内容です。

まず、皆さんはユニクロが何をしている会社か分かりますか？ユニクロは主に、①どんな服が必要かデザインする②服の材料になる糸や布を探す③服を作る④服を売るという4つのことをしています。そして現在、SDGsの12番「つくる責任つかう責任」を果たす為に服のチカラプロジェクトを実施しています。そこで開発されたのが，リサイクルダウンジャケット（右写真）、Tシャツやポロシャツなのです！

では、私たち消費者にはどのような責任があるのでしょうか？私たちは着られなくなった服を①捨てる②しまう③あげるの3つの方法で解決しています。ですが、捨てたり・たんすの奥にしまうと服のチカラが活きないだけでなく、たくさんのデメリットが起きてしまいます。それは焼却の際のCO_2排出や有害物質が発生し、大気汚染に繋がったりしてしてしまうなどです。では、私たちはなぜ服を着るのでしょうか？

それは、もちろん、服を着ないと恥ずかしいということもありますが、①命を守るため②自分の個性を表現するため。なのです。次は難民についてのお話でした。まず、「難民」とはどのような人のことを指すか分かりますか？難民とは自国に入ると迫害を受ける(恐れがある)人のことです。特にアフリカ大陸に多いです。年々増加しており、8000 万人以上に達しています。難民の人達は当たり前の日常が内戦や紛争などで突然できなくなり、生活に必要なものを十分に持てないまま避難します。そこで！服のチカラプロジェクト！　難民の約半分は子どもたちなので、子ども服を集めています。この服はユニクロ、GU でなくても構いません。季節も問わずに集めています。

最後に私たち日本人も、現在服を必要としている彼らも、同じような当たり前の日常を過ごしていました。ですが、内戦や紛争によって難民となってしまったのです。服には重要な働きがあるということが伝わりましたか？生きていくためには衣・食・住が必要なのです。皆さんも服のチカラプロジェクトを通じて、リユースを続けていきましょう。

この特別授業を通してこのプロジェクトをより深く知れたように思います。現在も回収中。夏休みを利用し、服を整理した際には是非ご協力下さい。

（神足佳音　北原萌衣）

服のチカラプロジェクトの流れ

集める　→　分ける　→　届ける

（学校）　（倉庫）　（UNHCR）

国連難民高等弁務官事務所‥‥国連の難民支援機関

人道危機によって，生活が脅かされた何百万人もの人々を支援している。難民の権利，安全を守るため，命を守り，援助を届けるため，彼らの尊厳と希望を取り戻すために活動している。

2020 年 UNHCR 支援対象者約 9190 万人

全人類の1%が紛争や迫害、そして暴力等で非難を余儀なくされています。また約42%が18歳未満の子どもです。過去最高であった前年をさらに更新。シリアや南スーダン、ベネズエラ、そしてロヒンギャ難民危機。長期化する紛争や迫害により多くの避難民が長期に渡り故郷を終われている中、2020年は新型コロナウイルス感染症（COVID - 19）が世界の避難民を襲いました。

難民支援の「今」　地域で見る支援者数・理由はそれぞれ

アフリカ：支援対象者 3594 万 5237 人

終わらない人道危機、そしてモザンビークやエチオピアで新たに勃発した衝突

アメリカ（中南米）：支援対象者 1835 万 6358 人

新型コロナウイルスの脅威に直面する中南米

アジア・太平洋：支援対象者 975 万 5055 人

長期化するアフガニスタン、ロヒンギャ難民危機

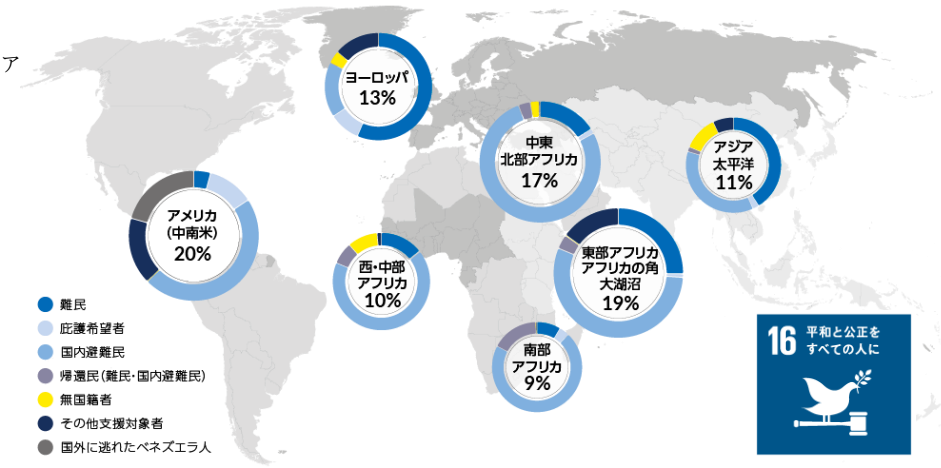
ヨーロッパ：支援対象者 1201 万 6349 人

今も続く地中海危機に対応するヨーロッパ諸国

中東・北アフリカ：支援対象者 1583 万 7447 人

政治的解決が見えないシリア，イエメン，リビア

国連 UNHCR 協会／公式サイトより



Japan and America　Garbage differences you

1. How to collect waste

First of all, the United States does not have a fixed garbage place like Japan. Instead, America has a big　garbage box for dumping at home. Throwing away the trash is very simple. Just separating the trash into the trash can and putting it in front of the house on the day when the trash is collected. When collecting, an arm pops out from the garbage truck instead of a person and picks up the garbage box as it is. The sight how the garbage is box is lightly lifted up and easily thrown into the garbage truck may be shocking for some people who see it for the first time.　I highly recommend you to actually see it in America.

Garbage is also collected at supermarkets such as Costco, which is famous in Japan. However, the difference from Japan is the deposit system, which means the money gets refunded. Many supermarkets are equipped with a machine for collecting trash, and when containers such as bottles and cans are placed, the money gets refunded. Depending on the area, private companies buy and collect trash at supermarket parking lots, and by the weight and number, you may exchange for supermarket shopping vouchers or cash. Both are installed to promote garbage separation and reuse.

2. Garbage separation and disposal method

Even though America has a culture of mass production and mass consumption, from the increasing environmental awareness, America has detailed rules for trash separation from region to state. For example, the state of Michigan where I lived does not separate garbage at all. Although there are places to sort at public facilities like schools, there are very few people who actually follow. On the other hand, California has strict waste regulations and trash can be fractioned into three colors: blue, green, and black. Blue is for recyclable plastics, glass, cans, paper and other resources, green is for compostable household waste and garden plants, and black is for other landfill waste. In Japan, we mainly process trash by incinerating, but America has a large amount of land compared to Japan, so most of the waste is landfilled. It may seem perfect for America with wide land, but it reduces equipment costs and labor costs by not building incineration facilities. It seems garbage separation is highly involved with the method of garbage disposal.

3. Difference of consciousness toward garbage sorting

Even though there is a sorting system mentioned above, not every people follow the rules correctly and many areas does not separate trash in the first place. Most Japanese people learn the importance of separating garbage from schools and parents, but America is also low in school education. For instance, in elementary school cafeterias, a large amount of paper plates and plastic forks are thrown together with leftover food in the trash can. Even in the classroom, handover prints and snack trash are both put into the trash can. Moreover, since the custodians do all the cleaning at school, most students doesn't find it concerning. In this way, although Japan has a habit of sorting and recycling, America has different rules depending on the area it seems that the awareness of trash problems are low from an early age.

4. Conclusion

The amount of household waste in America was 260 million tons in 2014, which is more than five times the amount of 46 million tons in Japan. And even if we consider per capita, Japan emissions about 1 kg a day, while America emissions about 2 kg a day, which is overwhelmingly large in America.

This time, we only compared Japan and the United States, but we should find more differences by looking at the whole world. Based on this, I think it is necessary for every one of us to have interest on waste. There are many things we can do, such as reducing leftover food, suppressing waste, and further promotion for recycling. I believe that the whole society should place more interest and take responsible action from each position, just like the SDGs 12th goal, "Responsible Consumption and Production".

（article Karen Konishi）

日本とアメリカのゴミに対するあれこれ　比較（3面の英文訳）

1．ゴミの収集方法

まず、アメリカには日本のように決められたごみ捨て場がありません。その代わり、アメリカには自宅ごとにゴミ捨て用の大きなゴミ箱があります。ゴミを捨てる方法はシンプルで、このゴミ箱にゴミを分別して家の前に持っていくだけです。その後収集時間になると人ではなく、ごみ収集車からアームのようなものが飛び出し、そのままゴミボックスを拾います。軽々とボックスを持ち上げるアームと、ポイっとボックス内のゴミを収集車に投げ入れる光景は初めて見る人には衝撃的かもしれません。ぜひ、実際に見ることをお勧めします。

また、日本で有名なコストコなどのスーパーマーケットでもゴミは収拾されています。しかし、日本と異なる点はデポジット制であること、つまりお金が払い戻されることです。多くのスーパーには回収用の機械が設置されており、分別してボトルや缶などの容器を入れるとお金が返金されるシステムになっています。地域によってはスーパーの駐車場で民間業者が買い取りを行っており、重さや数によって金額が決まり、スーパーの買い物券や現金に交換できます。どちらもゴミの分別や再利用を促進するために設置されています。

2．ゴミの分別と処理方法

大量生産、大量消費文化のアメリカも、リサイクルや環境意識の高まりから地域や州ごとで細かくゴミ分別のルールが設けられています。例えば私の住んでいたミシガン州は全くゴミの分別を行いません。また、学校のような公共施設には分別する場所があるものの、実際に従う人はごくわずかです。一方、カルフォルニア州は廃棄物の規制が厳しくゴミ箱は青、緑、黒の三色に分別されます。青はリサイクルできるプラスチック、ガラス、缶、紙などの資源物、緑はコンポスト（堆肥にする処理方法）ができる家庭ゴミや庭の植物など、そして黒はそれ以外の埋め立てるゴミを入れます。日本では主にゴミを焼却して処理していますが、アメリカは日本と比べて土地も広いため廃棄物をほとんど埋め立処分しています。土地が広いアメリカらしい方法ですが、焼却施設を建設しないことで設備費や人件費を削減して処分しています。ゴミの分別もその処理方法と大きく関わっているようです。

3．分別への意識の違い

アメリカにおいては、上記で述べた分別制度がある中でも実際は分別が甘かったり、そもそも分別しない地域がたくさんあります。日本は学校教育や両親からゴミ分別が大事だと学ぶ人がほとんどですが、アメリカは学校教育でも意識が低いです。例えば小学校のカフェテリアには毎日大量の紙皿とプラスチックのフォークが食べ残しと共にゴミ箱へ捨てられています。教室でもプリント類とスナックのゴミが一緒にゴミ箱へ。しかも処理や掃除は業者の方が行うため、関心を持たない人がほとんどなのです。このように、日本は分別やリサイクルの習慣が根付いているものの、アメリカは地域で分別ルールが違う上、幼いころからゴミに対する意識が低いと思われます。

4．結論

アメリカの家庭廃棄物の量は２０１４年で２億６０００万トンであり、日本の４６００万トンの五倍を超える量です。かつ、国民一人当たりで考えても日本が１日約１キロ排出することに対してアメリカは１日約２キロと圧倒的にアメリカの排出量が多いです。今回は日本とアメリカだけで比較を行いましたが、全世界を見るとこれ以上に様々な相違点が見つかるはずです。これを踏まえて、まずは私たち一人一人のゴミに対する関心を持つことが必要だと考えます。例えば食べ残しの削減、廃棄物の抑制、リサイクルをさらに促進させるなど私たちにできることはたくさんあります。また、SGD sの目標１２「つくる責任・つかう責任」のように社会がもっとそれぞれの立場から関心を持ち、責任を持った行動を意識することが世界の環境改善につながっていくと考えます。（記事　小西華蓮）

第３回「松浦杯」（校内弁論大会）出場者募集

求む、弁士！

今年度も開催　校内弁論大会

今年度も9月２５日（土）に第3回賢明弁論大会「松浦杯」を開催します。この弁論大会は「Be Leaders For the Global Goals Program」の活動の一環です。この弁論大会を通し、現在ますます深刻化する地球規模の課題について、一人ひとりが深く考え、「SDGs（持続可能な開発目標）の 17 のゴール」に向け自分たちにできることを考えるきっかけになればと考えています。

テーマ　「私たちと地球の新しい未来へ、提言」

持ち時間5分　音響はマイク使用　日本語で弁論

優勝者には松浦杯を授与。5位まで表彰状授与。また弁論の原稿については JICA 国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト 2021 にも応募します。文字数は中学生 1200 字以内、高校生 1600 字以内レベルが上がっている校内弁論大会。世界について考え、それを皆の前で発表する、今後求められている力です。その経験を是非一人でも多くの人に経験して欲しいと願っています。現在も世界で拡大する新型コロナウイルス、求められるニューノーマル。今後、世界のあらゆることが変化を求められます。また「グローバル化」「AI/ロボット化」「Iot」新しい未来について考え、希望、課題、今後人類が取り組むべきことがらについて論じてみませんか。原稿用紙、詳細は委員の平尾先生から受け取って下さい。